

## 平成20年度 第1回安曇野市公民館運営審議会 会議概要

- |   |           |  |
|---|-----------|--|
| 1 | 審議会名      | 公民館運営審議会   |
| 2 | 日 時       | 平成20年5月22日 午後1時30分から午後3時45分まで  |
| 3 | 会 場       | 明科総合支所 大会議室  |
| 4 | 出席者       | 神谷会長、渋谷副会長、内田委員、小山委員、下里委員、大倉委員、吉田委員、須山委員、降旗委員、曾根原委員、勝野委員、宮島委員、遠藤委員   |
| 5 | 市側出席者     | 望月教育長、松枝社会教育課長、加藤中央公民館長、丸山豊科公民館長、曾根原三郷公民館長、内田堀金公民館長、丸山明科公民館長、宮澤中央公民館主事、白澤徳高公民館主事、高嶋三郷公民館主事、竹田明科公民館主事、青柳中央公民館事務職員 |
| 6 | 公開・非公開の別  | 公開   |
| 7 | 傍聴人       | 0人 記者 1人   |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 平成20年6月3日  |

### 協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
  - (1) 開 会
  - (2) 説 明 (公民館運営審議会の位置づけについて)
  - (3) 委嘱書交付
  - (4) あいさつ
  - (5) 正副会長の選任について (神谷委員、渋谷委員選任)
  - (6) 協議事項
    - ①平成20年度公民館の運営体制について
    - ②安曇野市公民館サポート会議について
    - ③平成20年度公民館事業について
    - ④第二回安曇野市公民館大会について
    - ⑤その他
  - (7) 閉 会
  
- 2 審議の概要
 

公民館サポート会議について

(委員)

サポート会議が機能するように、公民館長さんにご苦劳いただきたい。また、地区の意見を汲み上げるような組織としていただきたい。

(委員)

生涯学習というと自主的な学習＝カルチャー的な学習という印象を受ける。いつの間にか大事な社会教育が袖に追いやられているような感じがするが、生涯学習と社会教育は個人的には違うものだと思っているが、教育長の見解はどうか。

(教育長)

委員の言われるとおり、生涯学習とは人間の一生でずっとやっていくものであり、その中に、学校教育の時間があったり、社会教育の時間があったりする。

(委員)

カルチャー的なものはとても盛んにあちこちで行なわれている。しかし、社会教育は人づくりであり、現代に欠落している部分である。公民館中心に社会教育を是非考え直していただきたい。

(社会教育課長)

委員の仰るとおり社会教育の重要性は感じている。全市的にやらなければならないものは教育委員会でもつ。ただもっと地域の皆さんに近いところでやってもらえる社会教育については、各公民館でお願いしたい。

(委員)

安曇野市になってから公民館がお役所的になってきた。使用していない部屋は鍵がかかっているが、使い方に問題があるのなら、広報等で訴えていくべき。立派な講師を呼んできて、立派な講座をやるよりも、地域の人が寄り集まるような場所であってほしい。

(中央公民館長)

子どもからお年寄りまでが集まる場が必要だと思う。地域の皆さんからもご理解いただき、皆が集まれる公民館をつ

くっしていきたい。

(委員)

今は事業の数によって助成金がもらえるようなシステムであるが、人と人とのふれあいをもっと大事にしていけるようなシステムも将来的に導入いただけるとありがたい。

(委員)

公民館を長く利用している。本来公民館は交流の場であるべきと思うが、その事業の結果で補助金が違うというような話を聞くと、根本的に行政が我々公民館に何を望んでいるのか聞きたい。

(社会教育課長)

委員からご指摘のやればやるだけ補助金がでるというシステムは地区の公民館についてである。各地域から代表者を集めて検討し、実績ポイントに応じて補助金を配布するシステムであるが、その尺度についてまたご議論いただければ、これから目指す方向も変わって、現実からかけ離れたものであればそれに近づけることもできる。また、住民の皆さんに施設を大いに使っていただきたいが、ルールを作りルールに沿った使い方をいただきたい。しかし、それがいわゆる公民館の良さを阻害するとすれば、常に提供できるようなことを考えていく必要がある。公運審でお話しただいたり、館長さんのお話をいただいたりしながら、市もできる範囲での改善は考えたい、

(中央公民館長)

先日の県の館長研修会で、茶髪にした学生が自由に入出入りし、たむろしているため他の方が利用しづらくなっている事例が報告された。確かに自由に入出入りして色々やれるのは理想であるが、今の現状では一朝にはいけないと感じる。

(委員)

決して、そういうことを望んでいるのではなく、例えば行事をやって運営委員で参加するような場合も、全て行政で決められていて、我々の意見でやりたいことをやれるという所がないような気がする。

(委員)

日本は全体的に指示待ち人間になってしまっている。しかし、指示待ちでなく自分で作り上げていきたいという人間もいる。指示を待っているほうが楽だが、そんなことばかりでは人づくりはできていかない。

(豊科館長)

豊科公民館としては、市の方をお願いして変えられるところは変えていきたいと考えている。また、6/1から公民館、勤スポの事業の参加者に内容について評価をしていただくことを考えている。

(委員)

公民館の使用時間を破って、好き勝手にやりたいということではなく、公民館を使っているから清掃くらい自分でやろうとか、そういう自治の雰囲気醸成されるようなものにならないか。

(委員)

公民館大会もあるが、他地区の公民館のいい活動を知る機会が少ない。紹介いただく機会があれば、視察させてもらい、参考にすることもできる。ご紹介いただければと思う。

(委員)

20年くらい公民館を利用させてもらっているが、今まで公民館でやっていたような事業が社協の方に移ってきたりしている。事業を取り合うということではないが、今まで公民館事業だったものが、地区社協の方が熱心になって、身近になって、参加者も増えてきているという現状がある。

(中央公民館長)

社協の代表とも先日、お互いに競合していると中途半端になってしまうという話をした。はっきりと事業の線引きはできないけれど、共同した形でお互いに情報を共有化しながらやっという話し合いをこの27日に予定している。

(委員)

社協も行政から離れて、独立した。公民館も色々なところとコラボレーションしながらやっという話も、事業が成り立たなくなっている。

(委員)

市民の運動会が役員の運動会になっている、なくなってもいいと思うが、行事を無くしていくという方向はないものか。その事業にお金が下りてくるから、やり続けたいといけないという話もあるが。

(豊科館長)

豊科は運動会については止めるのではなく、発展的に考えていこうということで、公民館の役員に投げかけている。6月位に結論をだそうということで進んでいる。また、体協とかとコラボレーションを図りながら市の大きな形の集団にもっていくというのが、一つの方法だと思う。

(委員)

運動会については穂高の場合区長会が主体となる。区長会でやる方向で決まってしまうので、公民館でもやりましょうという感じになっているのが現状である。

(三郷館長)

運動会についてサポート会議で検討していきたい。運動会でなくて誰でも自由に参加できる体育祭というのも一案だと思う。先日の館長研修会で運動会を隔年で実施している例が紹介された。新鮮な感じで取り組めるということであったが、いずれにしる極力アンケートをお願いし、これから事業を実施していきたい。

(委員)

合併前、明科町ではお年寄りから小さい子どもまで町中の人が集まる機会というのは、運動会しかなかった。企画している立場だったが、もうやらないと言われると思っていた。しかし、続けようという意見が多かった。

(委員)

審議会の回数だが、ちょっと少ない気がする。いい話を聞ける機会なので、今年度は回数を増やしていただきたい。

(社会教育課長)

今年は、生涯学習推進計画の策定の年度であるということで、委員の皆様にも色々な面でお世話になる機会が増えると思っている。事前になるべく早くご通知申し上げ、資料等もお配りしながらご審議をお願いしたいと思っている。